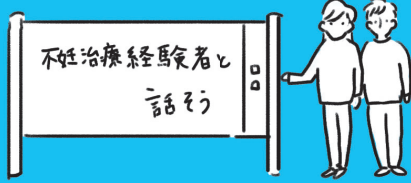


マナミとタクヤの なるほど!不妊症のこと

第4話 「不妊治療経験者と話そう」



私たちは
不妊治療経験者の話を
聞く会に参加した

最初は男性不妊を
経験したご夫婦の話

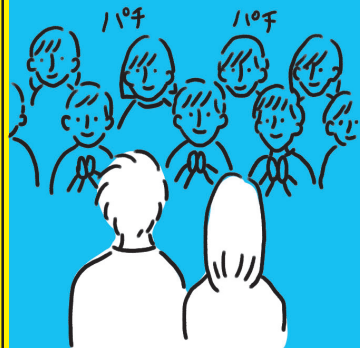
不妊治療経験者と話そうの
男性不妊の話

不妊治療はずっと
妻に任せっきりでした
でもなかなか赤ちゃんを
授からなくて
もしか自分に原因?と思って...
検査したら
『無精子症』と診断されました
いやーショックでした
お風呂で泣きました
妻に申し訳なくて

幸いにも
少しだけ精子があり

顕微授精に
トライすることになりました
お金がかかるので
うちは三回までつて決めて
結果二回目で妊娠となり
無事赤ちゃんを授かる
ことができました

ただ私がここで
みなさんに伝えたいことは
男性側に原因があったとしても
女性への負担は変わらない
ということです



例えば 卵胞を育てるための
毎日の注射
麻酔をしての採卵
受精卵の移植など
圧倒的に女性に
負担が大きいです

ですから男性のみなさん
できるだけパートナーに
よりそってください
それでも二人で思い詰めてしまうことも
あると思うんですよ
その時は気分転換に旅行に行こうとか
おいしいものを食べに行こうとか
誘ってあげてください
男性のみなさん
よろしくお願いします



次は子どもを産まない
選択をしたご夫婦のお話

妊活経験者と話そう②
子どもを産まないという
選択

私が結婚したのが28でした
その時ちょうど仕事が
面白くなってきた頃で
子作りは
どんどん後回しになって
気づいた時には
妊娠適齢期が過ぎていました

それからほとんどの
不妊治療をためして…
でも赤ちゃんはやってきて
くれませんでした

実は夫は五歳下で
『もう私はダメだと思っから
もし子どもが欲しかったら
離婚してもいいよ』って
言ったこともありました

そしたら
『君と結婚したのは子どもが
欲しいからじゃなくて
君と一緒にいたいから』
って言ってくれて

それじゃあ
最後に一回だけ
顕微授精をやって
それでダメだったら
子どもあきらめようって
二人で話しました

結果は…先生に呼び出されて
『残念ですが
妊娠してませんでした』って
言われて
今までだったらドーンって
落ち込むところなんです

その時はなぜか
スーって気持ちか
楽になって
『先生
お世話になりました！』って
明るく言えたんです

それから
二人でやりたいこととして
生きようって話をして
共通の趣味のゴルフをしたり
海外に行ったり
二人で楽しく
過ごしています

子どものいない人生なんて
考えたこともなかった
でも確かに夫婦の幸せの形って
色々あっていいはずだ
タクヤはどう思ってるのかな？

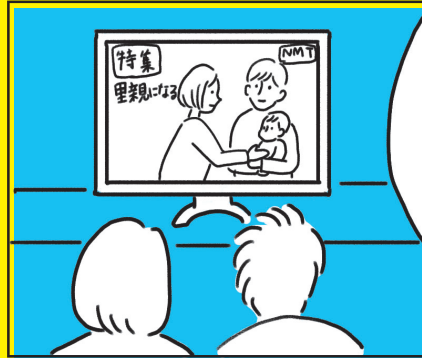
三組目は里親として
子どもを育てている
夫婦の話だ



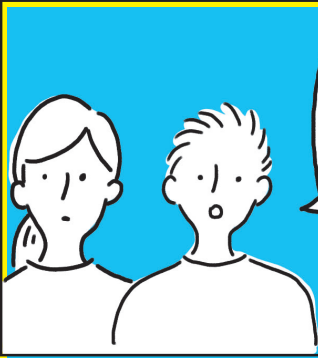
うちの夫は
ほんとに子どもが大好きで
小さな子の多い
親戚の集まりでは
すごい人気者で
この人のために
子どもを産んで
あげたいって思っていました
でもそれがなかなかできなくて
不妊治療でも
なかなか授からなくて



そんな時にたまたまテレビで
里親制度の話をやっていた
事情があつて子どもを
育てられない人って
結構いるって知って



妻は
血のつながらない
子を育てる自信がないって
思ってたみたいですが
僕は里親もアリかもと思って
そのあたりもネットで
色々調べてました

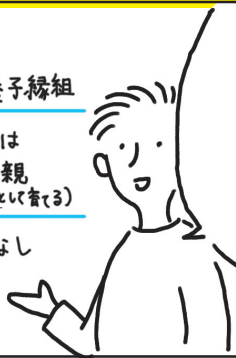


ちなみに実の親に代わって
子どもを育てる制度には
二つありまして
それが里親制度と
特別養子縁組

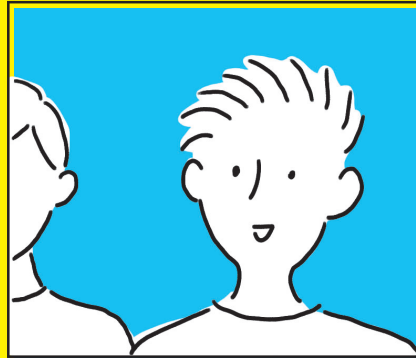


里親の方は
産みの親に
親権があるのに対して
特別養子縁組の方は
戸籍上も
自分たちの子として育てる
という違いがあります

里親	特別養子縁組
親権は 産みの親	親権は 育ての親 (実の子と見做る)
行政からの 手当あり	手当なし



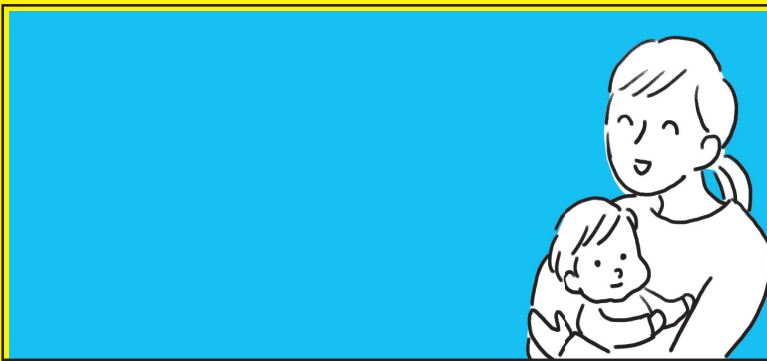
そんな感じで
色々調べていたら
ある児童養護施設で
子どもたちと遊ぶ
イベントがありまして
妻を誘ってみました
「ふふふ」っ

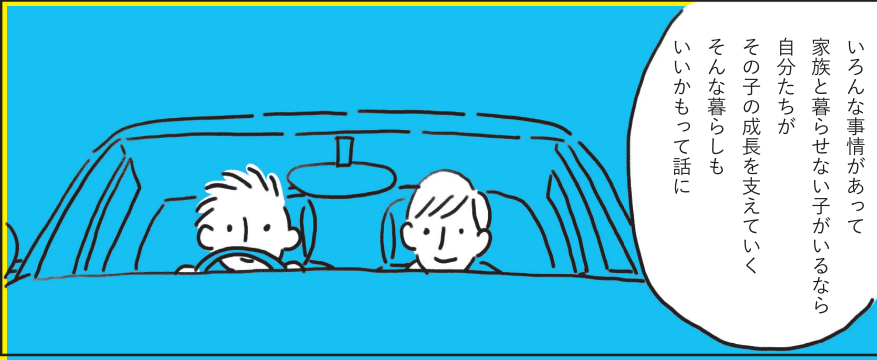


もともと
子どもが好きという
タイプじゃなかった
妻もすごく楽しそうで

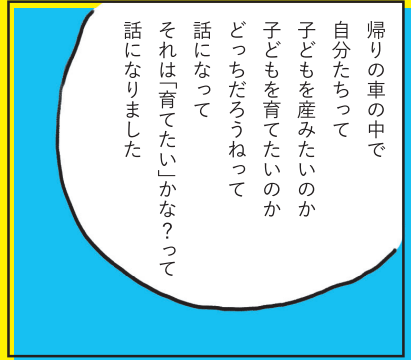


子どもって
愛おしいって
思えるようになって





いろいろな事情があつて
家族と暮らせない子がいるなら
自分たちが
その子の成長を支えていく
そんな暮らしも
いいかもって話に



帰りの車の中で
自分たちって
子どもを産みたいのか
子どもを育てたいのか
どっちだろうねって
話になって
それは「育てたい」かな？って
話になりました

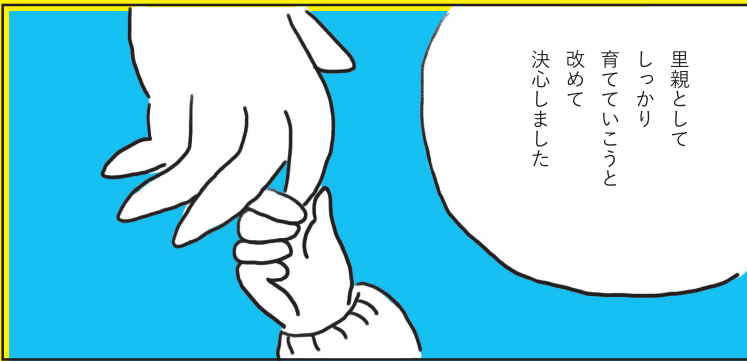


半年くらいたって
『お二人に
預かっていただきたい
赤ちゃんがいます』って
連絡がありました

え、
ホント
ですか!!



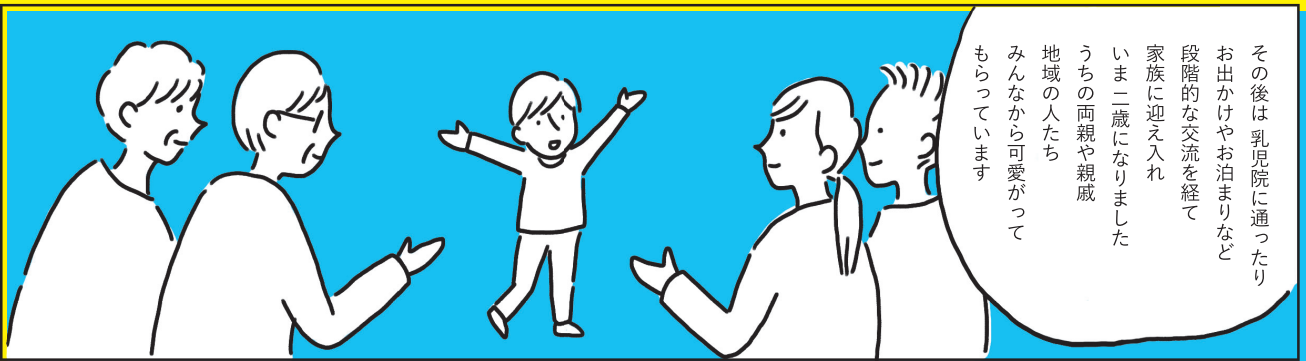
それから申請書を出して
行政の担当者との
面接と研修を経て
里親登録
あとはひたすら待つ
といった感じでした



里親として
しっかり
育てていこうと
改めて
決心しました



次の日乳児院に行って
赤ちゃんを抱っこして
ミルクをあげました
小さな手を握ると赤ちゃんも
握り返してきてくれて



その後は乳児院に通ったり
お出かけやお泊まりなど
段階的な交流を経て
家族に迎え入れ
いま二歳になりました
うちの両親や親戚
地域の人たち
みんなから可愛がって
もらっています



特別養子縁組制度や
里親制度は皆さんあまり
馴染みがないと思いますが
海外では一般的なものとして
受け入れられている
国もあります
みなさんは今妊活中だと
思うのですが
私たちのような選択もある
ということをぜひ知って
おいていただきたいと思います

